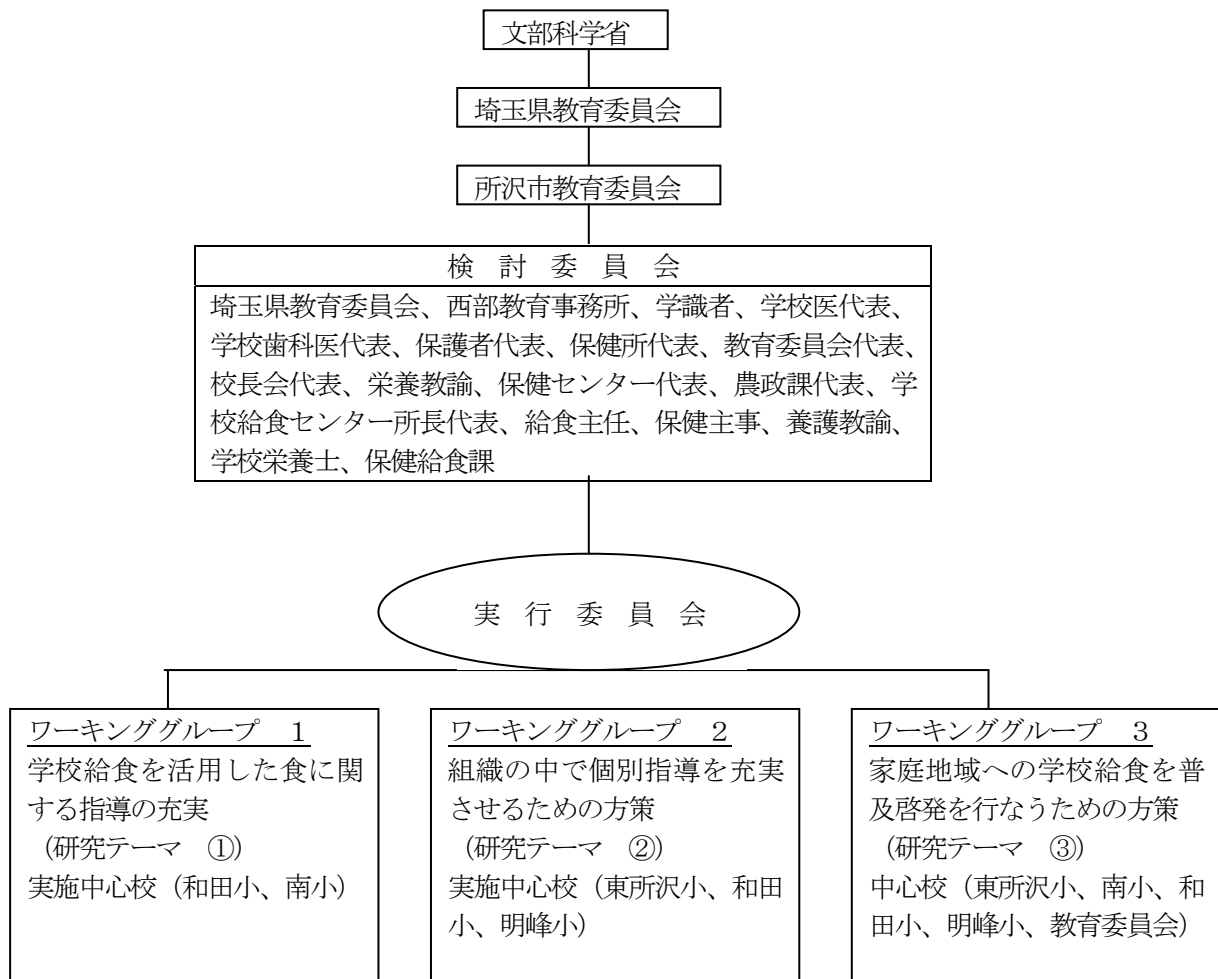


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書


都道府県名	埼玉県
推進地域名	所沢市

1. 事業推進の体制

研究主題「学校とともに地域ぐるみで食の楽しさ、大切さ、関心をもつ子どもの育成」



2. 具体的取組等について

テーマ1	学校給食を活用した食に関する指導の充実
<p>○学校給食の献立を「生きた教材」として適切なものであるか、学校給食摂取基準の改訂、及び地域の産物や食文化の継承などの観点から見直し、食に関する指導に取組んだ。</p> <p>・学校給食摂取基準を踏まえた献立の見直し</p> <p>・調理方法研究会 開催日：7月21日 開催場所：松井小学校 開催日：7月22日 開催場所：第3学校給食センター</p> <p>・年間給食計画の作成</p> <p>・ひとこと給食指導の作成</p> <p>・正しい食習慣を身につけさせ、食への関心と環境に対する意識の向上 11月11日を「はしの日」に制定するとともに、それに合わせて給食献立を工夫</p> <p>・食育掲示コーナーの設置</p>	
<p>「箸・うどんづくり (7月)」</p> 	

- ・食に関する問題点から食に関する指導
「箸・うどんづくり」教室の開催
 - ① 開催場所：柳瀬公民館 開催日： 7月27日
 - ② 開催場所：山口公民館 開催日：11月14日
- ・学校給食指導講習会の開催
議題：「食育推進における栄養教諭の役割」 開催日：6月17日 開催場所：所沢市立教育センター
講師：女子栄養大学短期大学部 教授 金田雅代氏
- ・アンケートの実施（学校給食について）7月（事前）1月（事後）

○自ら食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践する力を養うために、学校給食を教材として、発達段階に応じた学級活動等での授業を実践する。

- ・食に関する指導の全体的な計画
- ・学校給食を教材とし、発達段階に応じた授業の実践
 - ①授業研究：南小学校2年4組生活科「とうもろこしの皮むきをしよう」
授業者：学級担任 中島詔子 栄養教諭 高橋弥生
 - ②授業研究：和田小学校3年3組学級活動「すききらいしないで食べましょう」
授業者：学級担任 平松美季 栄養教諭 小林洋介

テーマ2 組織の中で個別指導を充実させるための方策

○食物アレルギーを持つ児童生徒の学校給食の対応（中心校 南小・明峰小）

- ・関係者と関わりの中での個別指導プランの工夫
（「アレルギー疾患の取り組みガイドライン」とのかかわり）
- ・関係教職員との連携
- ・食物アレルギーの知識理解対応研修会（東所沢小、明峰小、和田小）

○食生活に係る健康課題の把握と対応（中心校 和田小・東所沢小）

- ・個別指導における支援・指導・助言の工夫（朝食摂取）
- ・関係教職員との連携


テーマ3 家庭、地域への効果的な普及啓発を行なうための方策

○家庭、地域への啓発活動を通して、地域ぐるみの食育推進し、食生活の向上を図る。

- ・「食育フォーラム」の開催
会場：所沢市民文化センターミュージズ（中ホール） 開催日：11月17日
内容：①基調講演 講師：村上祥子氏 演題：「ちゃんと食べてちゃんと生きる 実践！日本型食生活」
②食育媒体の発表 西武学園医学技術専門学校学生による「エブロンシアター」
③シンポジウム 報告者：農業指導者、栄養教諭、保護者代表、小学校長

- ・学校給食展の開催
開催場所：所沢市立教育センター 開催日：2月5日、2月6日

- ・親子料理講習会の開催

7月28日	明峰小学校、牛沼小学校	「親子料理講習会」 
7月30日	南小学校	
8月25日	和田小学校	
8月28日	中富小学校	
12月12日	東所沢小学校	

- ・給食だよりの研究
- ・給食の画像の公開
給食センターの給食の画像を毎日インターネットで公開し、パソコン、携帯電話からの閲覧を可能とした。

テーマ1～3に共通する具体的計画

【「所沢市食育推進事業検討委員会」の開催】

・第1回会議 開催日：平成21年7月21日（木） 出席委員人数：16人

第2回会議 開催日：平成22年2月10日（水） 出席委員人数：15人

会議概要：平成21年度における食育推進事業について、事務局による説明とそれに対する質問、及び協議

＊学校の授業における積極的な食育教育の導入 ＊地場産野菜の活用

＊学校における栄養士の役割

＊朝食摂取率増加への取り組み 等

「視察先における、栄養教諭が参加した授業」



【学校給食先進校への視察】

視察日：平成21年10月7日（水）～10月8日（木） 視察先：福岡県新宮町立新宮東小学校、及び福岡県久留米市立日吉小学校 視察者：所沢市立明峰小学校栄養教諭外6名

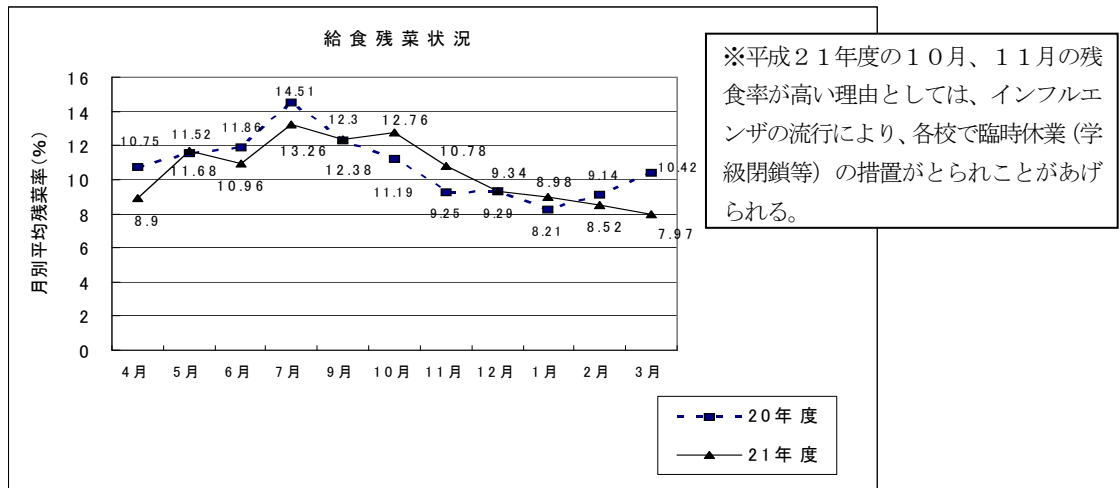
＊小学校の授業における栄養教諭の役割の重要性 ＊学校と家庭、地域との連携

＊給食室設計と機器配置の工夫

数字で変化のあった事項について

【学校給食残菜率について】

所沢市の給食センター、単独校における給食の残菜率の変化
（平成20年度と平成21年度の比較）



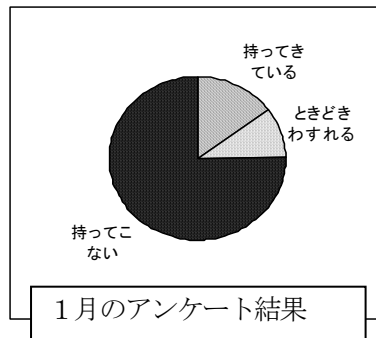
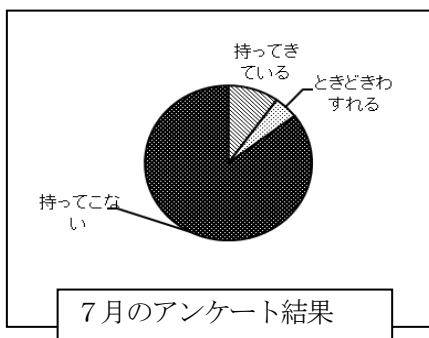
【朝食欠食率について】

所沢市の小学校5年生と中学校2年生の朝食欠食率の変化（平成18年度と平成21年度の比較）

		平成18年度	平成21年度
小学校 5年生	所沢市	1.0%	0.4%
	全国（参考）	1.9%	0.9%
中学校 2年生	所沢市	2.5%	1.8%
	全国（参考）	3.9%	2.6%

【中学校における箸の携行について】

7月と1月に行った学校給食のアンケートにおける、箸を携行し給食で使用している生徒数の比較
箸を「持ってきている」生徒の割合 7月：9.7% → 1月：14.9%



事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- * 学校における各教科と関連付けた給食計画の策定
- * 児童が自ら箸をつくる事業、及び親子料理教室を開催することによる、児童の食への関心の向上
- * 給食残食率の減

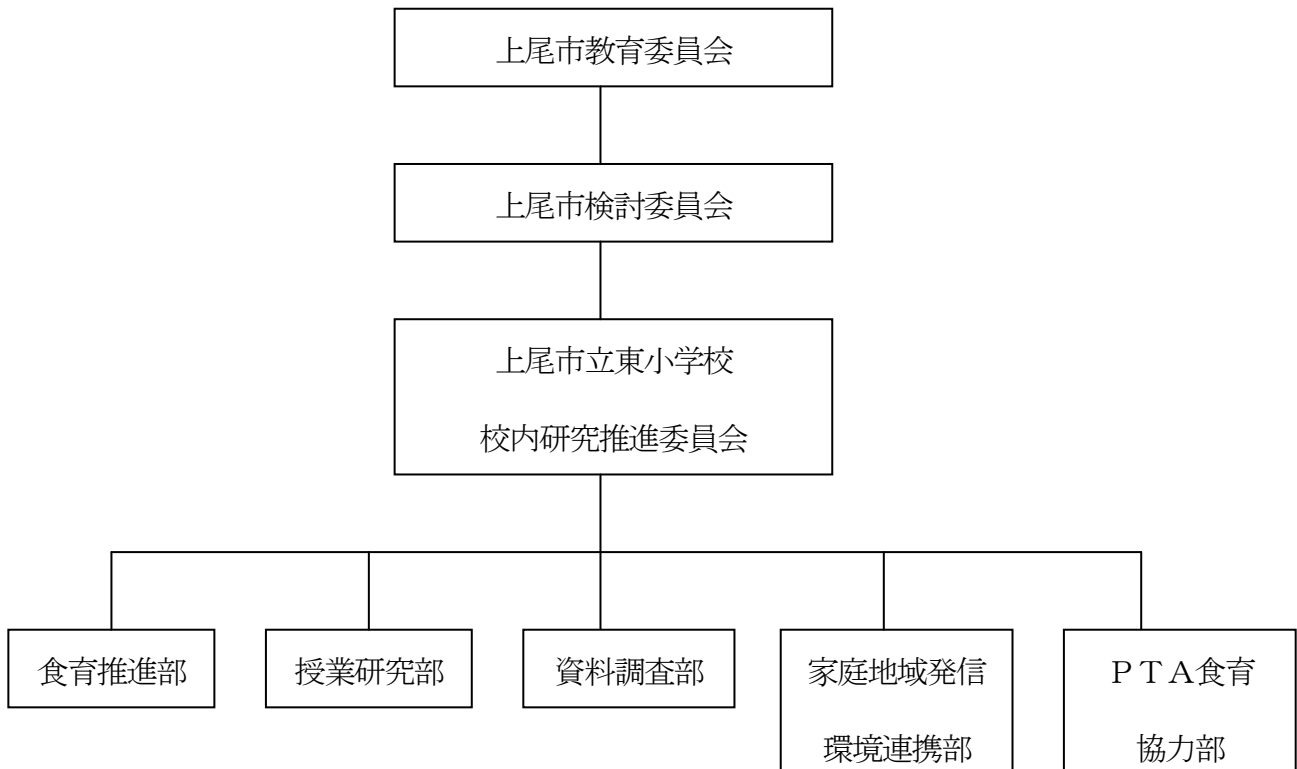
今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- * 市全体としての各教科等における食育推進事業の充実
- * 中学校の学校給食における生徒の箸の携行と使用
- * 市全体としての食育指導計画の必要性

栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	埼玉県
推進地域名	上尾市

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1 子どもたちの望ましい食習慣形成

○子どもたちの課題把握と改善

- ・食に関する実態調査の実施（年3回） ・給食指導の徹底（給食時間、食べ残し、箸の持ち方、マナー等の指導）
- ・給食委員による「食育集会」「給食ぴったり週間」「残しもの調査」の実施（年3回）
- ・食に関する講話の実施…食育に関する朝会 本田栄養教諭講話 7月17日(金)
- ・体力作りの実施と栄養指導
高学年体力作り（5年生朝の自主マラソン、6年生朝の自主マラソン・放課後の体力作り）
6年生対外行事に向けた栄養指導 10月13日・14日・15日・16日(家庭科)
- ・「給食」に係る生活目標の掲載…6月「歯を大切にしよう」 1月「給食をきちんと食べよう」



給食委員による「食育集会」



給食の様子



修学旅行でマナー教室（6年生）

○「食」に係る学校行事の実施と校内環境整備

- ・食に関する標語の募集、校内掲示と横断幕作製…10月全校に募集、11月横断幕の設置（地域への啓発）
- ・食育コーナー・給食通りの充実…給食委員会の活動
- ・「緑の森」での給食とマナー指導（なかよし給食）

テーマ2 食に関する指導の充実

○ 栄養教諭が専門性を生かした授業を意図的・計画的に実践

- ・食に関する指導の年間指導計画の見直し・作成・実践
- ・文部科学省発行の「食生活学習教材」「食に関する指導の手引」、埼玉県教育委員会発行の「食育推進指針モデル」についての研修会実施

- ・エプロンシアター…1学期 2年生5学級で実施、11月 1年生5学級に実施

○ 栄養バランスを考えた給食の献立の募集（高学年）…献立募集期間11月（6年生） 献立実施日12月

○ 各教員における食育授業実践の充実

- ・上尾市教育委員会指導課訪問における授業実践…6学級
 - 5年2組社会「これからの食料生産とわたしたち」（研究授業）
 - 2年3組特別活動「牛乳をのもう」
 - 4年3組社会「くらしとごみ」
 - 4年4組特別活動「1日のスタートは朝ごはんから」
 - 5年1組家庭「ごはんのみそしる」
 - 6年3組保健体育「病気の予防（生活の仕方と病気）」
- ・初任者研修公開授業…4学級（6年1組・2組、3年4組、4年2組）
- ・学校公開日（11月1日）…6学級（2年4組、4年3組、5年1組・2組・3組・4組）
- ・授業研究会（3回）…第1回授業研究会 6月29日（5年2組）（上尾市教委指導課訪問と兼ねる）
 - 第2回授業研究会 11月11日（4年1組）
 - 第3回授業研究会 11月18日（2年1組）
- ・その他 1、2、3年生…学級活動、4年生…学級活動・体育（保健）、5年生…社会、家庭、総合的な学習の時間
6年生…家庭、道徳、なかよし（特別支援学級）…生活単元学習
- ・食に関する年間指導計画の見直し・作成・実践…食育推進部を中心に作成
- ・実践事例集の作成…1年間の実践事例についてまとめる。

各学年のテーマ 1年 のこさずたべてげん気なからだ 2年 やさいとなかよくなるろう
 3年 くらしに生かそう先人たちのちえ 4年 バランスよく食べよう
 5年 お米の元気いただきます 6年 よりよく食べてよりよく生きよう
 なかよし きれいに・そだてて・かながえて

- ・学校産野菜の給食使用…みどりの学校ファーム（なんの園）での野菜作り（なかよし）
学級園での野菜作り（2年生） バケツ稲での米作り（5年生）



栄養教諭のT・T授業（社会科）



栄養教諭のT・T授業（学級活動）



バケツ稲作り（5年生）

テーマ3 家庭・地域への発信と連携

○ 学校・家庭・地域との積極的な連携と地域ぐるみの食育推進体制の構築

- ・ 緑のカーテン実施(ゴーヤ)
 - 1 学期 学校応援団ネット張り、苗植え、給食でゴーヤの使用 (等)
 - 夏期休業中 水やりと収穫…学校応援団の協力
 - 給食でゴーヤの利用 (スパゲッティナポリタン・かき揚げドライカレー・ミネストローネ等)
- ・ 「食」に係る横断幕の設置と発信…11月、学校のフェンスに設置
- ・ 「食育だより」「給食だより」「食育メール」の毎月発行
- ・ 給食試食会の実施…1年生保護者対象 10月29日
- ・ アンケート調査の実施と公開
- ・ 親子調理講習会の実施(夏季休業中)…3回実施 7月29日・8月11日・12日
 - 講師 栄養教諭・給食調理員 参加者 親子合わせて100名
- ・ ハッピーライフ委員会での講演…外部講師招聘 11月30日
 - 参加者：保護者、PTA役員、教職員
- ・ 毎月19日を「東小食育の日」とする…ノーテレビデーのよびかけ
- ・ お弁当の日の実施…第1回 運動会親子弁当(メニューに関わる。)
 - 第2回 青空給食 縦割り班での実施・マナー指導(おにぎりを作る。) 第3回 学校公開日(弁当を作る。)



食育だより (毎月発行)



緑のカーテン (ゴーヤの栽培)



啓発用横断幕 (児童の作品から)



ゴーヤの給食利用 (かき揚げ)



親子料理教室



児童の手作りお弁当 (お弁当の日)

テーマ1～3に共通する具体的計画

- ・先進校の視察をとおして、事業推進のための指針を得る。
 - 8月 6日・ 7日 京都府京都市立新町小学校・京都市教育委員会
 - 8月25日・26日 富山県富山市立呉羽小学校
 - 8月27日・28日 福井県鯖江市立片上小学校・鯖江市教育委員会

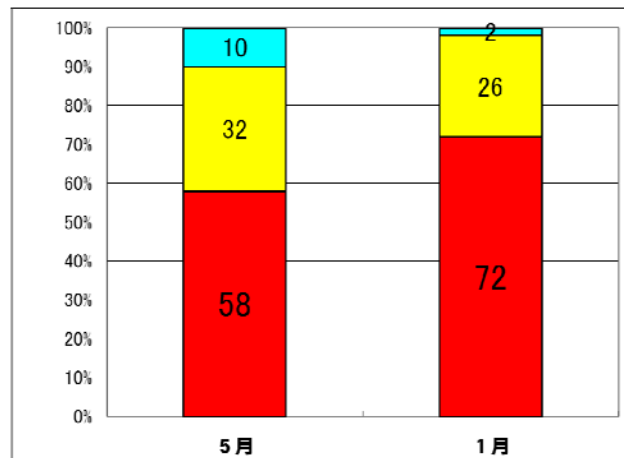
数字で変化のあった事項について

食に関するアンケート（全校児童対象）

○朝食の内容の変化

	5月	1月
・主食+おかず食べる（赤）	98%	98%
・主食のみ（黄）	32%	26%
・飲み物のみ（青）	10%	2%

朝食の内容がよい方向に変わってきた。



○感謝して「いただきます」を言う子の変化

	5月	1月
・感謝している（赤）	65%	70%
・どちらかという感謝している（黄）	27%	20%
・感謝しない（青）	12%	10%

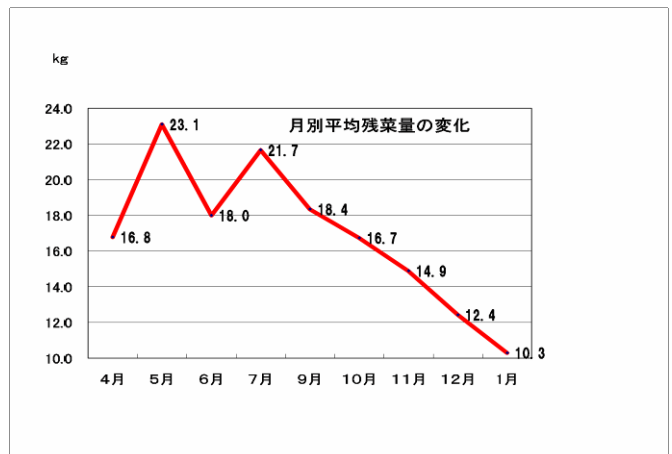
感謝する子が増えた。今後は100%を目指していく。



○給食の残食量の変化

- ・5月（最大値…23.1kg）
- ・1月（最小値…10.3kg）

残食量が半分以下に減少した。
 新型インフルエンザの流行で欠席児童が多いにもかかわらず、残食量が減少し続けた。
 高学年は残し物がほとんどない。



事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

○授業実践の充実

- ・全職員での授業実践
- ・体験を重視した実践

○栽培・体験活動

- ・児童による野菜や米の栽培
- ・学校応援団による緑のカーテンの実施
- ・収穫した野菜の給食での利用

○食に関する学校行事

- ・お弁当の日
- ・青空給食
- ・親子料理教室

○給食指導

- ・給食びったり週間…時間を守らせる指導
- ・毎日の担任による給食指導の徹底

○発信・連携

- ・食育だより、給食だより、食育メールの発行



栄養教諭のエプロンシアター



頼りになる学校応援団

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

成果

○児童

- ・成果残食量が減った。
- ・毎日の給食時間が落ち着いた。
- ・生活全般に落ち着きが見られた。

○教職員

- ・実践事例が増えた。
- ・全教職員が生き生きと研修した。

○保護者

- ・東小の研究・実践への理解が深まった。
- ・親子で食に向き合う家庭が増えた。



「こんなに大きなトマトができました」

今後の課題

○家庭、地域とのさらなる連携

- ・家庭地域を巻き込んだ取り組みを多くする。

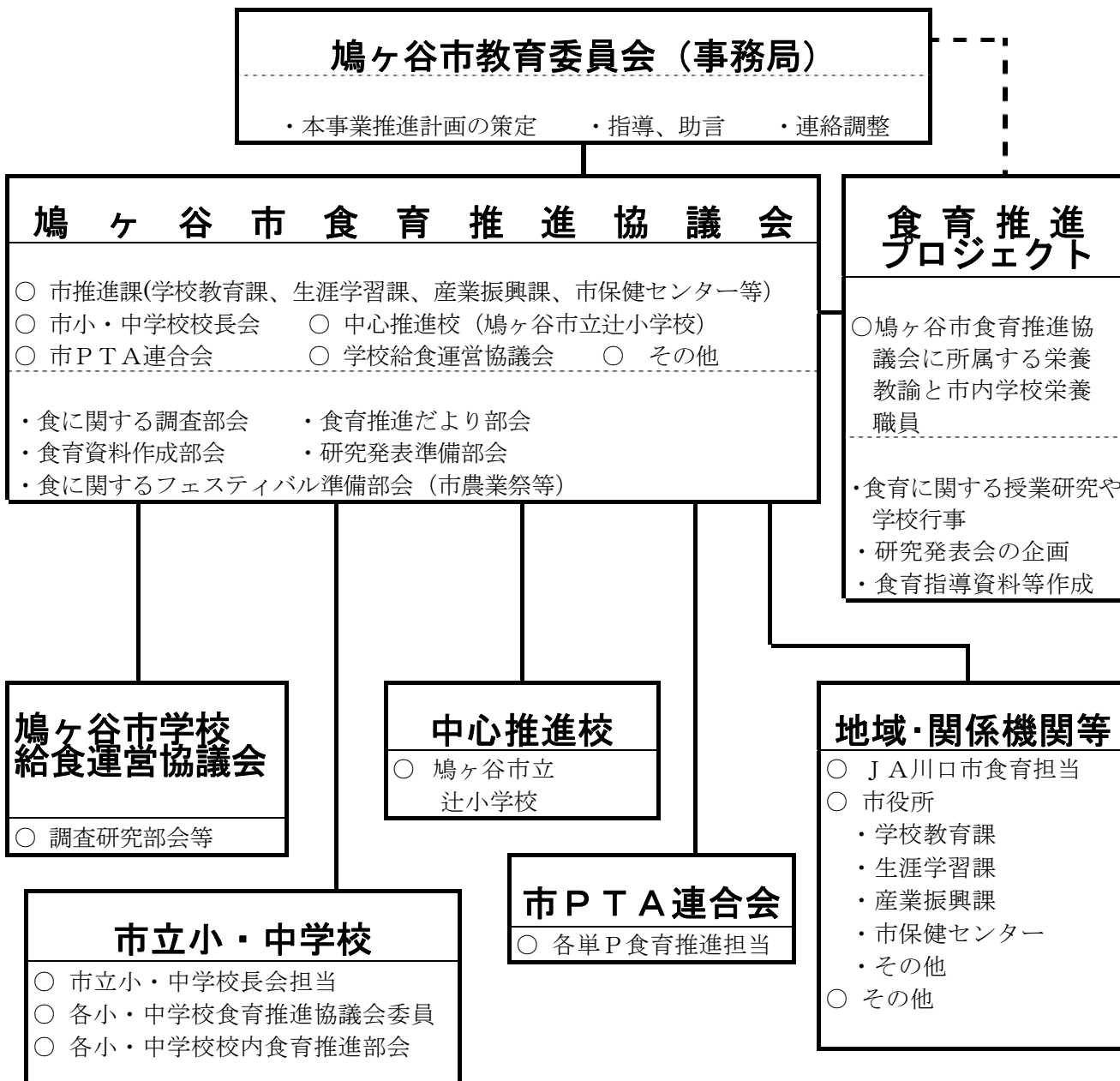
○実践事例のさらなる充実

- ・新学習指導要領完全実施を見据えた授業実践を多く設定する。
- ・教科を横断的に捉えた授業実践を多く設定する。

栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	埼玉県
推進地域名	鳩ヶ谷市

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1 市内小・中学校が朝食欠食率の改善を目指した食育推進を図るための、栄養教諭のリーダーシップのあり方

食育に関する市内児童生徒、保護者、教員の実態を把握し、栄養教諭がリーダーシップを発揮して、各学校の実態に応じた朝食欠食の解消を目指した食育に係る事業を行い、食育の推進を図る。

1 児童生徒、家庭や教員の実態把握

- ・ 食に関する実態調査の実施

2 食育推進に関する体験活動

- ・ 料理教室（朝食、親子、夏季休業中等）の実施
- ・ 学校行事（交流給食、給食週間の取組等）の協力、助言



3 食に関する指導

- ・ 食に関する指導目標の6つの観点をもとにした食に関する指導の全体計画・年間計画の見直し、改善（特に朝食欠食の解消を目指した指導の充実を図る取組等）と、全体計画・年間計画に基づいた授業の実践
- ・ 各教科・領域等の特質をもとにした授業の実践
- ・ 文部科学省や埼玉県発行の教材や資料を活用した授業の実践
- ・ 担任とのティームティーチングによる授業の実践
- ・ 朝食欠食の解消を目指した食育の指導に関するリーフレットの作成



テーマ2 栄養教諭が中心となつての市内小・中学校及び関係各課・機関との連携のあり方

各教科・領域等において、栄養教諭が中心となつて、食育推進プロジェクトの委員（栄養教諭及び学校栄養職員）が、専門性を生かした授業を意図的、計画的に実施し、小・中学校をとおした食に関する指導の充実を図る。

1 栄養教諭を中心とした食育指導推進体制の構築

- ・ 鳩ヶ谷市食育推進委員会の改編
- ・ 食育指導の深化充実を図る「食育推進プロジェクト」の新設

2 食育推進に関する情報発信

- ・ 食育だよりの発行と、各校の給食だよりのP T A広報誌等への協力、助言
- ・ 食に関する講演会（児童生徒、教員、保護者、地域対象）への協力
- ・ 食育推進に関するカレンダー作成やポスターコンクール等の実施、作成
- ・ 各校の校内食育コーナー設置に関する協力、助言
- ・ 市内関係機関主催の事業と連携させての啓発活動（「鳩ヶ谷農業祭」への参加等）



3 食育に関する研修

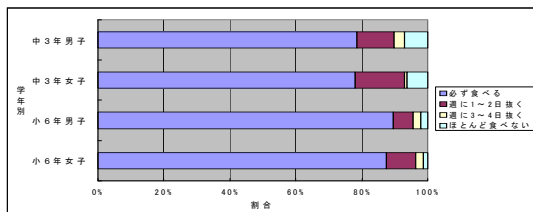
- ・ 事業推進のための指針を得る先進地の視察

テーマ1～2に共通する具体的計画

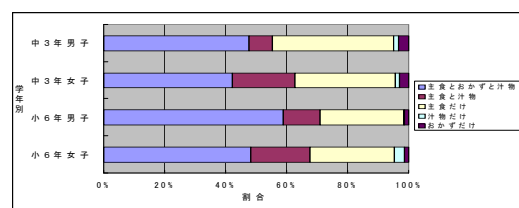
- 朝食欠食率改善をめざした目標値の設定
 - ・小学校：1.7% ⇒ 1%以下
 - ・中学校：6.7% ⇒ 3%以下
- アンケート調査結果から考えられる本市の傾向
 - ① 児童生徒の傾向
 - ・朝食欠食率が、小・中学校ともに全国平均を下回っている。特に中学校では、大きく下回り課題である。
 - ・生活習慣の改善、特に早寝をすることが課題である。
 - ・朝食を摂っている児童生徒においても、栄養バランスを考えた食事をしている児童は半数である。
 - ・朝食は孤食傾向にあるが、夕食は、大人の誰かと食べている児童生徒が多数である。
 - ・間食や夜食を摂る児童生徒については、小学生、中学生ともに、3割程度ある。
 - ② 保護者の傾向
 - ・食事の摂り方（誰と食べているか等）について、児童生徒と保護者のとらえ方にギャップがある。
 - ・朝食はさっとすませ、夕食はできるだけ団らんで過ごしながら夕食を摂るよう心がけている傾向がある。
 - ・保護者自身の朝食欠食率が高い。
 - ・家族の嗜好、栄養バランス、家計に見合うものを念頭において食事を作るよう心がけている傾向がある。
 - ・給食献立や給食だよりを比較的読んでいる。
 - ③ 教員の傾向
 - ・朝食欠食よりも、睡眠や偏食について指導の意識が向いている傾向にある。
 - ・教員自身の欠食率は概ね良好であるが、どちらかという小学校の教員の方が朝食欠食率が高い傾向にある。

数字で変化のあった事項について

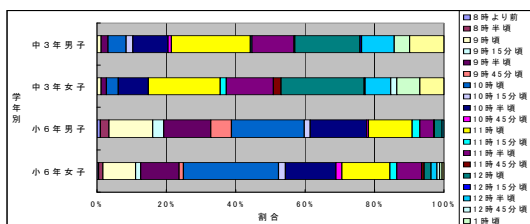
○ 朝食欠食率（小学6年生、中学3年生）



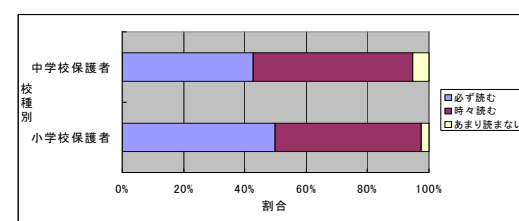
○ 朝食の栄養バランス（小学6年生、中学3年生）



○ 寝る時間（小学6年生、中学3年生）



○ 給食献立等资料への関心（保護者）



事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- 事業全体を通しての成果として、朝食の重要性が児童生徒・保護者に理解され、朝食欠食の改善を図ることができた。また、朝食の内容についても、パンのみ、牛乳のみ等単品の朝食から、ご飯とみそ汁とか、おかずにご飯、パンとスープなど、バランスの良い朝食を摂るよう心がけるようになったことも成果と言える。
- 食育指導資料集は、教員が簡単に印刷してすぐに授業に使えるとともに、保護者などに配布しても使えるものなので、授業研究会で活用するなどして、食育の推進に生かされている。
- 食育推進だよりは、児童生徒、教員ばかりでなく、市内各小・中学校の全保護者と、各自治会へ配布しているが、地域の方々から市教委の事務局へ食育推進だよりに関する問い合わせがあるなど、反響も大きく、食育推進に効果があるといえる。
- 関係各課や関係団体の協力による各校での親子料理教室は、簡単な朝食メニューや親子で調理実習を行うことにより、食育、特に朝食の大切さに関する家庭への啓発を図ることができた。

- 栄養教諭を中心とした市内全学校栄養職員と市教委担当指導主事で構成された「食育推進プロジェクト」は、プロジェクトの中で検討された内容が直接各校の取り組みにつなげられたことにより、教職員へ食育に関する意識を涵養させることができた。
- 朝食の大切さを中心としたポスターコンクールの実施や食育カレンダーを作成したことにより、児童生徒が朝食の大切さを実感させることができた。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- 朝食欠食に特化して取組んだ結果、各校の家庭・地域の実態や教員の意識など、学校間で差異の大きいことが課題となった。
- 1年間の取組では、食の重要性の意識化は図れても、それを実践化につなげることが難しいことが課題となった。特に、朝食を用意する保護者の生活環境や生活習慣まで変容させての改善は、長期で計画を立てて実践する必要があると考える。
- 朝食欠食の改善は見られたが、本市が目指す目標値には届いておらず、さらなる取り組みを進めることが大切である。特に、朝食欠食の改善を図るためには、家庭の協力が不可欠であり、今後は家庭への啓発をどう図っていくかが課題となる。